

■箕作麟祥 洋学者、啓蒙家、司法官僚。欧米諸法典の翻訳編纂に当たり、日本への移植や成文法の起草に貢献。

みつくりんしょう

孝明天皇・1846=

江戸鍛冶橋の津山藩邸で、_箕作阮甫の養子の省吾死去後、その子に生まれ、

_阮甫の庇護を受けて育つ。

ペリー来航・1853= 7歳：

安政大地震・1855= 9歳：

蕃書調所・1857=11歳：この頃から安積良斎らについて漢学を学ぶ一方、

家で祖父箕作阮甫について洋学を学び、

桜田門外変・1860=14歳：

遣欧使節・1861=15歳：蕃書調所に出仕、

8月18日政変 1863=17歳：_祖父阮甫の死去で家督を相続、幕臣に列せられ、

禁門の変・1864=18歳：外国奉行翻訳方となる。

薩長同盟・1866=20歳：_仏学を速習し、

大政奉還・1867=21歳：_パリ万国博覧会派遣使節徳川昭武一行に従って、フランスに留学。

明治維新・1868=22歳：_帰国。新政府に招かれ、兵庫県御用掛などののち、

戊辰戦争終・1869=23歳：*翻訳御用掛となり、欧米諸法典の翻訳編纂に当たる一方、家塾開いて、大井憲太郎・中江兆民らを指導。

初の日刊新聞1870=24歳：制度取調を兼任、

廃藩置県・1871=25歳：編修寮専務となる。*名古屋藩の依頼でフランスのボンヌの著を訳し「勸善訓蒙」を刊行、小学校の教科書にも用いられ、偽版が出るほどであった。

明治6年政変 1873=27歳：翻訳局長。

佐賀の乱・1874=28歳：_(明六社)に参加し、「リボルチー」ノ説など翻訳紹介による啓蒙活動にも力を注ぐ。

初の民間工場1875=29歳：訳著「万国政体論」、_{万国叢話}に「国政転変ノ論」を紹介して政府内に物議をかもし、民権派を力づけた。

三つの反乱・1876=30歳：司法大丞。_日本近代法の基になるナポレオン法典はじめフランス法律を翻訳した「仏蘭西法律書」を刊行、

西南戦争・1877=31歳：司法大書記官・民法編纂委員兼務。訳著「デルソル氏仏国民法解釈」、

..... 1880=34歳：_東京学士会院会員に選ばれ、元老院議員に転ずる。

明治14年政変 1881=35歳：

新体詩抄・1882=36歳：

秩父事件・1884=38歳：*以降、会社条令・破産法・商法などの編纂委員や法律取調委員に任じられるなど、それらの日本への移植やわが国成文法の起草に貢献して行く。

国民之友始・1887=41歳：訳著「仏蘭西法律書」。

初の対等条約1888=42歳：_法学博士。司法次官。

帝国憲法発布 1889=43歳：

帝国議会始・1890=44歳：_貴族院議員、私立和仏法律学校(法政大)校長に就任。

足尾鉾毒始・1891=45歳：

日清戦争始・1894=48歳：

白馬会・1896=50歳：_行政裁判所長官に就任したが、

八幡製鉄始・1897=51歳：_没した。